

倉吉市総合計画審議会 第3回建設環境部会 記録

- 1 日時 平成23年2月1日(火) 15:00～17:25
- 2 場所 上灘公民館 研修図書室
- 3 出席者 岡野部会長、永山副部会長、由田委員、安田委員、福田委員、坂根委員、
衣笠委員、山柁委員
事務局 総合政策室 森室長、向井企画員、木藤主任
水道局 景山局長、建設部 早田部長、市民生活部 岡本部長
総務課 矢吹課長、市民生活部 平田次長
環境課 安田次長、吉川係長、景観まちづくり課 長井課長
下水道課 若竹課長、商工観光課 森石課長

4 内容

(1) 開会

(2) あいさつ 岡野部会長

(3) 協議事項

- ・意見のまとめについて、事務局から説明。
- ・網掛け部分が文章を修正してはというもの、網掛けがないものが、前回までにお応えしているものという整理。
- ・(資料に沿って説明。記録略)

15:13

安田委員) 施策1の中の地域計画の関係。「市民対話集会でも意見が出ており、地区振と意見交換した際には、公民館から～とあるが、公民館とは地区公民館か自治公民館か。

事務局) 地区振興協議会の誤り。

安田委員) 地区振興協議会と意見交換した際に必要ないと整理したとあるが、なぜそう整理されたか。今までの地域計画は絵に書いた餅であった。地域がやること、地域と行政がやること、行政がやることに分けて地域計画を作ったが、地域と行政がやることは進まなかった。これでは作らないほうが良いという意見が大勢だったように思う。私は作ったほうが良いと思う。地区の現状と課題を挙げて目標をたて、実施計画をつくってきた。倉吉市の総合計画に沿って。地域の実情をどうやって反映していくのか、もうちょっと具体的に。「行政経営の方針の施策7で、双方向型の情報提供の充実の広聴で対応したい」とあるが、地区要望だけで地区の将来像は果たせられるのか疑問。要望はあくまで道路などの要望であって、地区の将来像は解決できないと思うがどうか。作るのをやめて、要望だけ聞きたいというようにとれる。これでいいのか疑問を感じる。

事務局) 広聴という表現だけを書いているが、市の経営スタンスとして、双方向型の情報、広報ということを取組方針に入れている。基本的には、両方が要望に限らず、共有する

ということを考えている。行政経営の方針の施策の1番目にあるが、「市民参画と協働のまちづくりを支える仕組みを充実させる」、項目を挙げている。そういったしくみを作ってまちづくりしていくという考え。

安田委員) 地域計画は、経営方針4の今後の取組方針の「広聴機能の充実」で対応ということか。

事務局) 地域計画ではなく、地域の実情を把握するという意味。

安田委員) 専門部会ではなく全体の問題であるが、地域計画を作ってきた経過がある。他の委員は地域計画とは何だという委員もいると思う。地域計画について地区振興協議会の会長が集まり、作らないという結論が出たので作らないというのは違う。現状では絵に書いた餅なので、このままではいけないという意見であった。私はいると思う。

由田委員) 全く同様の意見。ビジョンでも市民が主役となって13校区を訪ねて作られた。自分たちの地域は自分たちで、というのは財産。13校区の中で、地域計画の濃淡はあったと思う。要望型のものもあった。しかし、やめるのではなく、地域の人が、地域自らをどうしていくのかを考えていくことは大事。地域計画をつくる作業そのものが地域の財産。無くなるのは寂しい。もうちょっと工夫があってもよかったと思う。地域の要望・課題は、他の局面で対応というが、地域の人が自ら考えることを奪ってしまったことが残念に思う。

事務局) もっともな意見。市民対話集会では、複数の地区から必要ないという声が出てきた。地域によって温度差は確かにあった。総合計画の中ではないが、同冊につづったという過去があるが、総合計画と整合していない部分もあり、地区の課題が積み残しになっていた。このことが、役に立たないという意見になっていると思う。これまで行政が主導で地域計画を作ってください、と言ってきた。地域でビジョンを持つてというのは大事。13地区の地域計画をバランスよく重視することが市の責任であり、各地区の話し合いということだと思う。手法が明確になっていないため、広聴、双方向ということしか表現できていない。市の組織改革も着手している。その中で、広報や広聴、市民との話し合いをどう取り上げていくか、が課題となっている。総合部会のほうに、住民の双方向性、手法の論議をしていただければと思う。

岡野部会長) 総合計画と擦り合わせをしてきた。地域で行うことは地域で進めているが、行政と一緒にやるところがうまくいっていなかった。地域計画をとってしまうと、行政の責任がなくなってしまう感じがする。

安田委員) 地域で、というのは地域でやっている。地域と行政と一緒にやると、が浮いている。

永山委員) 地域計画が機能しないから廃止して、今後は双方向の広聴で対応したいと読めるが、日本語的に変だという気がする。双方向型の情報が流れる、参画を進めるというのは目標であって、地域計画は具体的な制度、方法。廃止して目標を実現するには新たな制度、方法を提案しないといけない。機能しないからやめるのではなく、機能しない

から改善せよという立場の人が多と思う。新しい形の参画、情報の交流を提案しないと納得されないのでは。

事務局) おっしゃるとおり。具体的な方法が記載していない。地域計画は、これまで出身地区の行政職員が計画を作っており、行政全体と地域が整合していなかった。今後は、市全体として、整合していかないといけない。地区のビジョンを、どう意見を取り交わしてくのか、そこが具現化していないので、課題になっている。全体的な会議でまとめていただければと思う。

由田委員) 他の分科会では出ていないか。

事務局) 福祉教育文化部会では基本目標3で、自主的・自発的に進めるまちづくりを支援するところでは、地域計画の話はなかった。総合部会の行政方針で、まだ議論が進んでいない状況であるので、話が出ると思っている。

安田委員) 地域計画にかわる、地区の構想、ビジョンがどうやって表現してもらえるか。

由田委員) 新たな方法で対応できればよいが。

事務局) そのまま総合部会に出し、部会長から説明していただく。

安田委員) 自治公協議会の会長がここにいるので、他の部会からは出ないと思う。この部会で出さないと出ない。

山柁委員) 地域計画を知らなかった。総合部会でも知らない人が多いのでは。議題として取り上げないと難しい。地域計画をなぜやめてしまったのかではなく、新たに地域計画にかわるものを出していただけないかとしないといけない。

由田委員) 総合部会でも説明されるため、その中で議論を深めてもらったら。

福田委員) 平成元年からまちづくり協議会や団体はあったと聞いている。地域づくりとまちづくりは別として、夏祭りの計画とか夏の盆踊りとか、全部計画してやってきた。ここ4~5年で薄れてきた。事務局が市役所にもどり、各団体の代表が集まって続けてきたが、現状は5~6人で運営している。まちづくりに協力してくれる人が減った。これでは夢がない。新しくやり直すまちづくりが必要なのでは、と話をしているところ。正月前のイルミネーション、未来中心のイルミネーションが最近ついていないのは、運営できないから。協力してくれる人が減ったから。市民と市民参画課が一体となってここ10年やってきた。含めて、協力してくれる人が減ってきたことは事実。まちづくり協議会のことを話していただければ助かる。

永山委員) それらを含めて、今まで通りのやり方でいいのか、ということ。

福田委員) 時代が変わってきた。長く続けてくることがいいのか、知恵があればお願いしたい。

事務局) まちづくり協議会の在り方について。まちづくり協議会は牧田市政にでき、市民が会員になって、会員数も多かった。当時は企画課職員が中心となって回していた。パークスクエアができてからは、教育委員会が中心になって。現在、市民参画課が所管となっている。財政的な問題もある。会員もほとんどが市の職員。総合計画とは、まちづ

くりとしては関連するが、まちづくり協議会のことは別に協議が必要。

吉田委員) まちづくりという大きな項目があって、まちづくり協議会の現状を総括しながら、どう支援していくか。がないのが不思議。公として。あるとしたらどこにあるのか、今の福田さんの思い。

事務局) 基本目標3の中で、施策7～8。施策7にコミュニティ関係、体制、支援。施策8にまちづくり活動を活発にしていこうということを書いている。

由田委員) ちょっと違うような気がする。福田さんが言ったことと。まちづくり協議会の役割は「自主的・自発的なまちづくり活動を支援～」に該当すると思うが、今後の取組方針、指標に出てこないといけない。

事務局) 自治公民館をはじめとする意識の希薄化があるため、強化し、NPO法人含めた活動団体の支援。参画して、まちをにぎやかにということが書いてある。新しい公共ということで、行政が抱えているサービスを民間、NPOへの移行を含めた議論がされている中から、このような活動を支援していきたいとまとめている。まちづくり協議会もイベントも含めて、たくさんものを未来中心開設以来、利用促進事業として実績がある。まちづくり協議会に参加している団体が少なくなっている中での意見だったと思う。市内にはNPO法人が15団体ある。ボランティアの団体等が69団体ある。現在、そのネットワークを作って、情報交換ができるような事業を21年度から進めている。このあたり含めて今後の取組にしたい。

福田委員) わかりました。

永山委員) 参画を進めていかなければいけないと書いてあるが、具体的な提案がない。

由田委員) 指標がないから、文字だけとなる。指標に表すことは難しいが、ないと尻すぼみになってしまう。行政がコーディネートして具体的な取組をどう評価していくかが大事。指標として出てないと、具体的な支援事業として出てこないと思う。

永山委員) ネットワークの協議会をつくるのか、そしてどういう権限をわたすのか、という具体的な提案が必要になる。

事務局) 団体のコーディネートについて。文化団体協議会、まちづくり協議会も小さな団体に集まっていたいて、事務局を市が直営で運営してきた。今、まちづくりの団体が法整備等により、NPOなどいろいろな団体ができた。まちづくり協議会だけを市の直営でコーディネートという感覚ではなくなってきている。他の団体と同じようにすることが行政の役割。今、存続が問われているところ。時代が変遷している。他のまちづくり団体と同等にコーディネートしていくという考え方。

山榎委員) 指標の話が出たので聞きたい。成果を測定するための指標が載っている。現状値と目標値。11次総が初めてか。それとも前からあるのか。

事務局) 10次総の指標としては指標名までで抑えている。現状値と目標値は今回が初めて。

山榎委員) 具体的な目標を見せていくための、現状値があつて、目標値がある。その間を

どうやってという部分が計画だと思う。どうやって達するのかが見えてこないのが感想。平成27年の目標値を出す以上、具体的に、そこに達することができるという説明の仕方がいる。

事務局) 指標は後で説明するが、総合計画の作りが、目指すべき姿を見据えて、取組方針をはめ込み、指標を出している。目指すべき姿の方向に狂いはないかという成果指標を考えている。事業に対するものではない。

事務局) 過去はもっと具体的なものを出していた。金額も書いていた。10次総では、思いや願いとなった。数値目標に置き換えることが難しい。住民満足度をアンケートでとるが、100%正しいものではないと認識している。現在のところは住民の満足度が指標の根幹であろうと思う。

永山委員) 「にぎわいのあるまちなかを形成する」では、上井のあたりが交通の結節点ということで、すべてのものが市役所周辺で、上井は交通結節点だけ。現実には駅の上のほうに移っている。位置づけはこれでいいのかと感じる。

事務局) 難しい課題。倉吉の生い立ちであるが、合併前から、西倉吉の河原町、明倫、成徳が発展をし、旧倉吉が形成されてきた。上井に国鉄の駅ができ、2面性を持った。旧上井駅、旧倉吉線が走っていた。倉吉は、河川と鉄道で分断されたまちと評価されたこともある。上灘の土地を整理して融和してきている。新たに河北地区が伸びてきている現状。都市機能という面で、官公庁部分が成徳にある。上井に社会保険事務所と税務署があるが、まだまだ至っていない。

永山委員) どう位置づけて、どう結び付けるかが大きな課題だと思う。

由田委員) 旧市街地も上井も中心地点としてわけている。そうせざるを得ない現状がある中で、難しい。

永山委員) 上井は交通拠点で、市役所の辺りが中心と位置付けていいのかという質問。外から見れば倉吉は湯梨浜のほうに伸びていって、境目がなくなるように発展しているように見える。

事務局) 悩ましい部分だと思う。倉吉はDID(人口集中地区)ない。河北地区の区画整理をして、湯梨浜町につながるところが発展している。明倫地区から成徳地区、上灘、上井、河北と流れて、三角州の下流に移行している。官公庁部分では、商工会議所など成徳にあり、2面性がある、位置づけはやむを得ない。

永山委員) 倉吉の人がそれでよければそれでよい。

事務局) 車社会を見越して、区画整理をしてきた。乱開発にならるように。

衣笠委員) 若いころは、中心街が倉吉にあったが、だんだん遠くになっていく。関金も倉吉だが、これから倉吉に出てくるという感覚、イメージがある。倉吉に行ってくるというイメージがさびしい。

岡野部会長) 道路も海岸線を通っており、そっちに出ていく。

永山委員) 駅のほうが発展しているのに固執しているとみられるかもしれない。二個の流

れがある。河北の流れ、成徳明倫が空洞化の流れ。

事務局) 過去にもパークスクエアに商工会議所の移転の働きかけをしたり、市庁舎をパークスクエアにという隠れた計画もあった。財源的なところもあるし、難しい。官公庁や文京施設を移転したら、成徳明倫の空洞化はもっと進むだろう。上井周辺と、歴史・文化的なところで、成徳、打吹地区という分け。

永山委員) 行政は意識的に成徳地区を中心市街としているということか。

事務局) そうです。

由田委員) 河北地区に移転すると地域は反対すると思う。人が離れていく。地域の維持を考えて残していくことも選択のうち。

衣笠委員) 子どもは西中校区か河北中校区が多い。昔は東中校区だった。子どもたちが多い地区は親が多い。今は西倉の辺りと小鴨は増えている。

福田委員) 小鴨小学校も建て直して、今は小鴨小学校が一番多いと思う。しかし街全体は減っている。空き家も増えている。若い人はアパートに出ていく。空き家が20件ぐらいある。

衣笠委員) 「まちの幹線道路網を～」について意見がひとつ。313号の整備について。村の真ん中を走り、優良農地を潰していく。田んぼの真ん中を走り、山に向かい、道路が曲がっている。道路網を整えるというと、道路がまっすぐというイメージがあるが、集落の中を分断する形になるため、私には納得できない。なぜ真ん中を走るのか。ぐるぐる回るのか。道路整備を整えるとあるが、整備という感じでは受けない。313号からいくと、矛盾、納得いかない。

由田委員) 市民の声がある。そんな中での道路整備をどうしていくか。

事務局) 313号は、今、福光までルートが決まっている。福光から関金区間が決まっていない。ルート案が出て、地元提案しているところ。小鴨の谷において、田んぼを分断する形で、大鴨橋にインターができ、堤防沿いを通り、関金庁舎に出る計画。当初は福光から県道利用という計画もあったが、できたら自動車専用道路でという願いをしてきた。自動車専用道路はメリットがある。中田から米子、鳥取まで40分でいけるようになる。勤め先も就職圏内になる。専用道路があることで、企業がくるメリットがある。そのため、専用道路計画を立てていただいた。古墳群が田んぼの山すそに2か所あり、田んぼに振らざるを得なかったという、文化財のことがある。地元の農地関係者と協議をしながら、どのルートが一番良いのか検討しているところ。3月中旬に小鴨土地改良区と協議しながらルート決定したい。全体区間を8キロと決めているが、費用対効果のことがあり、1期工事で大鴨橋までの工事をして、2期工事の際に検討していきたい。まちの分断はしかたのないところ。高架部分を長くして、風通しのいい形にもっていくとか、検討しながらやっていきたい。

衣笠委員) 次の世代の子どもたちも運転する道なので、アクセスできたものをお願いしたい。

事務局) ルートは割と直線的なルート。地域高規格道路なので、規制もあり、曲がりくねったものではない。

永山委員) 後に町名変更が出るのでは。

事務局) 基本的には、町の分断はない。

16:22

成果指標について、事務局が説明。

- ・ビジョンということで、これまでの総合計画とつくりが異なっている
- ・ビジョンをもとにした目指すべき姿を施策の頭にもってきて、この動きをみるための指標を検討してきた。
- ・(資料に沿って説明。記録省略)

16:38

由田委員) 施策2について。旧市街地の名称について。市民権を得ているかどうかかわからないが、他の呼び方はないか。また、「駅周辺の」が先にきているが、「旧市街地」が先では。多少違和感を感じる。先に成徳地区があったほうがよいと思う。

安田委員) 確かに、旧市街地はもう市街地ではないととれる。

事務局) 打吹地区とか。

安田委員) 「駅周辺の商店」とは商店があるのか。全部河北地区にいつている。

事務局) パープルタウン含めて。

岡野部会長) 周辺がどこまでかあいまい。

事務局) あいまいな言い方だが、通常よく使う言い方。この場ではつきり答えが出せない
ので、成徳地区であるとか上井地区、地区の使い方を事務局で整理して再度提案したい。

由田委員) 不法投棄廃棄物処理件数。平成22年が7件で、平成27年度は5件。ゼロを目指す意気込みがあつてしかるべき。5にした根拠を聞きたい。

安田次長) 年次的に処理していく件数。処理してゼロにすることが理想。毎年5~6件を処理しているということでこの目標値。

由田委員) 7件を50件処理するということだとわかるが。

永山委員) 不法投棄は犯罪なのでゼロじゃないといけない。しかし、目標をゼロにしては予算が書けない。

事務局) 成果指標を削除する考え。なじまないと思う。

事務局) ご指摘のとおり、成果指標として適当なのか、と思う。

永山委員) 留学生が不法投棄したら、すぐに退去させられるくらい、それぐらいの犯罪。

岡野部会長) ステーション方式でやっているが、100%か。

事務局) 90数%にはなっているが、土地がない。ステーションは、建物があるわけではなく、一箇所に集めるということ。

事務局) 不法投棄の処理件数は削除したい。

永山委員) 施策6の目指すべき姿。住環境のところ。「良質な住宅・宅地の供給～」とあるが、市営住宅という意味か。宅地は過剰になっているのでは。それとの関係は。

事務局) 目標140戸。市営住宅の数値。

永山委員) 市営住宅を供給するという文章ですか。

事務局) そうです。

事務局) 市が宅地造成をするのではない。市外への転出、近隣町への転出が多い現状をうけ、優良な宅地を民間開発含めた区画整理で、宅地提供ができる政策をするということ。

永山委員) 宅地は10年前から供給過剰になっていると思うが。

事務局) 上灘地区で若者定住の宅地を作ったところ、希望する方がいる。人口は減っているが、件数は増えている。

安田委員) 上灘地区は住環境のいいところ。宅地もある。ただ、一番高い。そこで若者が住めない。そこで市街地に出ていく現状。小鴨、生田、社などの川の西側は宅地が安い。

事務局) 区画整理地内は地価が高い。郊外の小鴨地区の生田、社地区の秋喜、上北条地区の宅地造成が増えてきている現状。

永山委員) 移転推進力になり、中心市街地が空洞化するのでは。

事務局) 中心地からよりも郊外、山間地からの分離が多いと実感している。

永山委員) 自主防災組織を80%にするという。犯罪や事故について、何をしたら増やせて、減らせるのか、根拠のある数値か。

事務局) 自主防災組織については、具体的なやり方をお示ししながら、地域に対する協力で増やしていけると考えている。機運が高くなっている。交通事故、犯罪は、市は警察との協力において啓発を行う。啓発活動の中で交通事故が減ってくる傾向が近年ある。犯罪は、形犯罪の啓発、消費者行政の取組の中で減らせていけるとい、ひとつの考え方でご理解いただければ。

由田委員) 消防団員の人数の確保で85%にとある。現状値は、市内13校区の中で、5地区が充足しているということ。5年後には85%なので、13校区のうち11校区を充足させる。この5年間に6地区を充足させるとしている。具体的な例として、ほかの2地区は、成徳、明倫なのかな、という意識が働いているのか。目標設定したときどこかの地区を設定したのか。

事務局) サラリーマンの消防団員もあるので、企業への働きかけ等をして、85%を確保したい。地区を限定したものではない。

由田委員) 5年間で6個は高い目標だと思う。自主防災組織を充実すればするほど、自衛消防団、地域の公設消防団員が減る可能性がある。知恵を働かせてほしい。高いハードル、努力を。

安田委員) 自主防災組織は高い数値でもよいのでは。100%でも。なぜ80%か。小さい集落は地域と地域が合併して自主防災組織をつくるとか。いろんな方法がある。

事務局) おしゃるとおり。地区の自衛消防団がなくなって、自主防災組織にという過渡期。

公民館の予算の中で、自主防災部として新たにつくるのかという議論がぎくしゃくしている地区がある。高城と上小鴨に自衛消防団が残っている。自主防災組織に変わってきている。地区の中では、論議がされている状況。そういう理解で。当面80を目指していこうという設定、将来は当然100%を目指していく、その過渡期。

衣笠委員) 高齢化がすごい。子どもたちの防災の意識を高めていく等が入らないか。年齢が上の人が防災をやっているという意識になってもいけない。中学生、高校生の意識を高めることが大事だと感じる。

由田委員) 自主防災組織は年1回訓練する。応急処置、初期消火など、大人と子どもが訓練をおこなう。地域の中で災害弱者を守っていく、子どもに知らせるのも家族や自主防災組織の役割。火事の時だけでなく。災害に強いまちをつくるベストの運動。自主防災組織をつくって、多世代が訓練、災害危険箇所を確認しあうことが大事。

岡野委員) 自治連も防災については取り組んでいる。そっちからでも。

永山委員) DV、児童虐待の件数は、認知されたほうがよい。わからないよりもわかったほうがよい。人権の問題はどこで。

事務局) 基本目標2の施策9に児童虐待、家庭内暴力を入れている。

永山委員) ここで出てくる数字は、刑法犯として認識しているのか。別カウントか。DVも児童虐待も刑法犯だが。

事務局) 倉吉警察署に虐待、DVとして認知された場合はカウントされる。

衣笠委員) 生活バス路線の年間利用者数の目標値が減っているのは、5年したら利用状況によりバスの本数が減るということがあってのことか。今の本数がさらに少なくなる可能性を踏まえた人数か、人口減少か。

事務局) 減少というイメージではなく、今のところ、人口減少を踏まえ、今の数字を維持していくことを前提に施策を考えている。減らすという意味ではない。バス路線の話は今検討しているところ。幹線と支線にわけ、利用形態は、乗り継ぎになるかもしれないが、デマンド、小型化していく考え方。便数までの話にはなっていない。利用しやすいという方向で考えている。

永山委員) 目標値をアンケート調査にするのはやめたほうがよい。客観的な数値をとり、後でアンケートをとるもの。満足度調査はあてにならないのが一般的な結論。

坂野委員) 耕作放棄地の現状値が49ha。5年もたったら、今耕作されている土地が耕作放棄地になると思うが。

事務局) 動きをみる中で、農業委員会も面積を押さえ、認定農業者の方が借りてとかの動きもある。そういうのを含めて40まで下げていこうとするもの。

山柵委員) 5年たったときに予想される数値を出して、目標値を出していくとわかりやすいところもある。バス路線とか。

事務局) 高齢者になると免許の返納とかもあり、また、バス利用の減もあり、5年後にこ

うなるというのは、出せない。

山榘委員) 予測なので。当然目標値として数を出す以上は、予測に基づいて出しているの
だろうから、数字じゃなくてもいいが、5年後は利用者が減ると思われるので、という
ような説明の欄に一言あってもよい。

由田委員) 中部の交通協議会で今協議している説明に終始した。交通協議会で対策をとり、
努力の結果で、押しとどめているという丁寧な説明がある。説明が不十分だと感じる。

17:21

岡野委員) 最後にないか。

永山委員) 総合計画なので、行政の努力でここまで引き上げるという思い責任。自覚がい
るのかなと思う。

岡野委員) 事項を踏まえて、この本部会の最終案としたい。総合部会に報告したい。地区
振の地域計画などを総合部会で議論させていただきたい。みなさんご審議ありがとうございました。

17:25 閉会